

図書館だより

6月号 (令和8年度)

川之石高校図書委員会



1学期もはや三か月が過ぎ、待望の夏休みが近づいてきました。夏と言えば読書感想文の季節です。今年も、本を読みその感想を書いてもらうことになります。自由読書・課題読書のどちらかで書くようになりますが、今回は三冊ある高等学校の部の課題図書を紹介します。川高図書館にも間もなく入る予定です。ぜひ読んでみてください。



〔課題図書の紹介〕

『スウィッシュ!』(藤ノ木 優 著)

スウィッシュはボールがリングにまったく触れない完璧なシュート。しかし、決められる選手はほんのひと握り。そんなシュートを打ったこともないバスケ部の愛奈は、骨折をしてしまったエースの羽瑠とともに高校生最後の大会に挑む。しかし羽瑠は全治四か月。このままだと大会には間に合わない。愛奈はチームのために、疎遠だったスポーツドクターの父・竜介に相談するが――



『平和のうぶごえ 「原爆の子」として生きた80年』(早志 百合子 著)



広島市の被爆少年少女の体験手記を集めた『原爆の子』(1951年初版、岩波文庫)は、投爆直後の貴重な証言集として、発売当時から国内外に衝撃を与え、現在も読み継がれる。

1972年、執筆者らのグループ「きょう竹会」が発足し、以来50年にわたり、年に一度広島で集まり、被爆者の人生の苦悩を分かち合い、励まし合ってきた。

本書では、同会の会長である著者が自らの被爆者人生を振り返りながら、仲間とともに「原爆の子」らがこの80年をどのように生き抜いたのか、伝える。最晩年を迎えた彼女らが次世代へ送る、生きるためのメッセージ。

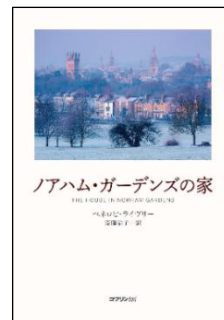
『ノアハム・ガーデンズの家』(ペネロピ・ライヴリー 著・斎藤 倫子 翻訳)

1970年代初頭のイギリス、オックスフォード。14歳のクレアは、古い家具や調度品、書籍であふれた大きな家に、大おばたちと暮らしている。高齢のふたりにかわって、家事や家計の切り盛りをするのはクレアの役目だ。

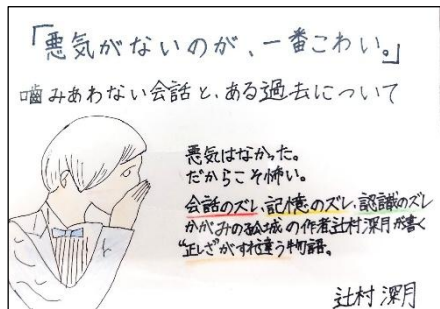
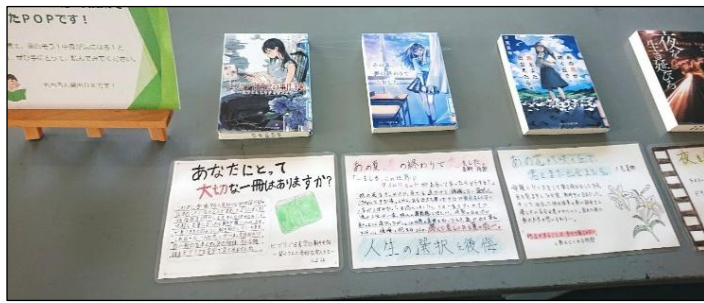
ある日、クレアは物置のトランクのなかに、彩色された木の板を見つける。それはかつて、人類学者だった曾祖父がニューギニアから持ちかえたものだった。

やがて、クレアは奇妙な夢――はるか彼方で暮らす、見知らぬ人々の夢――を見るようになり、クレアの心は大きく揺らぎはじめる……。

イギリスで50年間読み継がれてきた名作、初めての日本語訳!

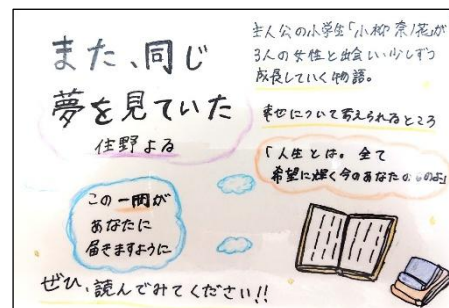
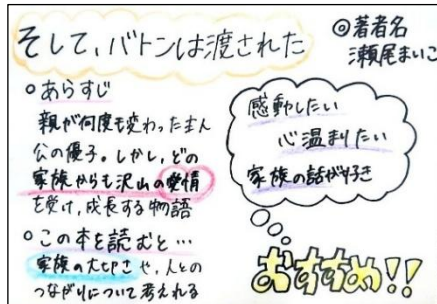


〔図書館案内〕



皆さんは「POP（ポップ）」という言葉を知っていますか？これは、「Point of purchase」の頭文字から取った略語で、商品の横に置かれる「おすすめ！」を伝える看板やカードのことです。本屋さんでもよく見かけますね。

3年次生が授業の中で本の紹介をするPOPを制作しました。本を読み、その本の内容やおすすめポイントが簡潔に書かれています。川高図書館に見に来て、気になる本があればぜひ借りて読んでみてください。



〔5月 月間図書貸出冊数〕

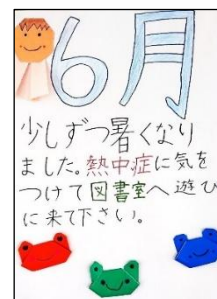
〈クラス別〉

5月1日～5月29日

2-1	2-2	3-1	3-2	合計
6冊	7冊	17冊	13冊	43冊

〈個人別〉

- 1位 6冊 吉本 陽向 (3-1)
- 2位 4冊 中川 華穂 (2-2)
- 3位 3冊 市川 小春 (2-2)
- 3位 3冊 石山 康太 (3-1)



一冊の本に人生を丸ごと変えてしまう力があることを、みんな理解していない。

マルコムX (アメリカの黒人公民権運動家／1925～1965)